

KIZASHI

[関西おもしろ企業事例集 - 企業訪問から見える新たな兆（きざし） -]



人づくりで
始まる
未来づくり





若手の「気づき」を養い、
顧客志向の真骨頂へ

二九精密機械工業株式会社
代表取締役社長 二九 直晃

京都で育ったものづくり企業

今回取材したのは、京都に拠点を構えるものづくり企業、二九精密機械工業株式会社である。同社は、戦前の1917年に創業し、今日まで約100年の歴史をもつ。ステンレスや特殊合金、チタンなどの難加工材の精密機械加工部品の製作をはじめ、医療や半導体分野にも進出し、近年では、世界で初めてβチタンパイプ(※1)の商品化に成功するなど、高い技術力を武器に、今後も幅広い分野での活躍が期待されている。

企業理念「4M+S=29ING」
NGに込めた思い

同社の理念「4M+S=29ING(※2)」の「4M」とは、同社がものづくりに欠かせない基本要素と捉える「人・素材・機械・方法」を指す。ここで「人」を真っ先に据えるのは、「組織は人が中心となって動かすものであり、それゆえに『人は宝』、『人財』である」との考えが根底にあるためだ。

本稿では、創業当初から「ものづくりは人づくりから」という考え方を受け継ぎ、守ってきた同社の「人への投資」に迫る。

スピード感と確実性のある
人材育成への挑戦

「人への投資」をはじめたきっかけは、高精度・難加工技術を要する同社の特性にあった。創業した当時は「先輩・上司の背中を見て育て!」というのが社会の風潮。しかし、難度の高い業務を行っていく場合、ベテラン社員が会社の成長とともに培ってきた熟練の技のすべてを、目で見て学ぶだけで受け継ぐには時間がかかる。そこでスピード感をもって確実に一人前に育てもらうため、社内の体系的な研修制度を整える必要があると考えた。

将来を担う若手育成に注力

そこで、同社は、新人や若手リーダーの人材育成に力を入れる。まずは、「新人研修」。特に意識しているのは、同期の「横のつながり」だ。入社後3ヶ月間は、毎週、全新人が一堂に会する場と



同社の理念(※2)

※1: βチタンパイプ…軽量で高強度、高耐食性等の機能を有し、高い加工技術を要する素材。

※2: 「4M+S=29ING」の理念は、「ものづくり」の基本は、Man(人)、Material(素材)、Machine(機械)、Method(方法)に集約され、この4つの柱に新しい技(Skill)が組み合わせられた時に、初めてFUTA・Qの技術が確立されるという意味を持ち、これらを常に最新の状態に進化させ続け、地球・人類に貢献することを数式で表している。



二九直見社長

して研修を実施し、座学やグループディスカッションを通して相互に言葉を交わし、笑顔を交え、「同期の輪」を構築する。研修の目的は、社内で仲間を作ることを通じて、会社に対するロイヤリティ（帰属意識）を持つってもらうこと。新人研修を通し、業務や社員に接することで会社の文化・風土を理解してもらうことに努めている。

次に「リーダー人材育成」。若手とベテランの世代間ギャップが問題となった当時、その間を繋ぐ中堅層の育成が課題となった。そこで同社は2021年頃から若手のリーダー人材に必要な要素を体系的に打ち出し、研修を実施してきた。代表的なのが、2022年度の取り組み「4つの芽（右下図）」や2023年度の取り組み「2つの若葉（左下図）」である。「2つの若葉」では、「部下を見守る力」と「オンリーワンの技術開発力」の2つに焦点を当て、知見や経験を持つ大学教授や大手企業OBを講師に迎えて研修を進めている。

2つの若葉（2023年度）

オンリーワン技術の若葉

2022年度の技術の目から
若葉への進化!!
座談会方式で
「閃いた」技術の案を現実化

人財育成の若葉

自身の目指すリーダー像へ
部下を見守る力を
同世代の仲間とわいがや方式で
身につける



進化
←←←

4つの芽（2022年度）



リーダー人材育成プログラム

これらの人材育成の効果は、社員からふと感じられる「自信」に加え、売上や工場の生産性向上など目に見える数字でも現れている。

「気づき」を与えるという難題

人材育成における課題は、社員に「気づき」を与えることだったと、二九社長は苦笑いする。同社の強みは「お客様に良い提案ができること」。顧客の相談にワンストップで応え、製品を届ける同社では、顧客の真の要望に気づかなければならない。その「気づき」を得るためには、「考える」ことを大事にしてほしいという社長の思いがある。その実現に向け、自ら考え、気づき、改善する力を育てることができている研修を、現在も日々試行錯誤している。

人材育成の目指す先

今後の目標は「顧客志向」の真髓を考えられる人材を育てること。そのためには、経営層が責任をもって社員に対し、顧客ニーズの本質を満たす提案力と、自社の技術を顧客ニーズに結びつける発想力を養う必要がある。「やりたいことは限らない！人の力は無限大！」。そう語る言葉からは、同社で働く社員ひとりひとりへの期待があふれていた。

